

2014年3月期 期末決算の概要

2014年4月25日

JFE商事 株式会社

1. 2014年3月期連結決算のポイント
2. 連結損益計算書
3. 連結貸借対照表(要約)
4. 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)
5. 《参考》売上高・経常利益推移(連結)

1. 2014年3月期 連結決算のポイント

◆売上高

国内向け鋼材の販売数量増、及び円高是正による鋼材輸出価格の押し上げ効果等により、前期比で374億円増収の1兆7,813億円。

◆経常利益

鋼材の輸出では中国の過剰生産等により厳しい環境が続いたものの、国内向けにおいて自動車関連向け鋼材や建材等の需要を確実に捕捉し前期比65億円増益の215億円。

◆純利益

経常利益65億円の増益等により、前期比44億円増益の115億円。

2. 連結損益計算書

(億円)

	第3Q累計 (4-12月)	第4Q (1-3月)	当期	前期	増減(当期-前期)	
					増減	増減率
売上高	13,064	4,749	17,813	17,439	① 374	2%
売上総利益 (利益率)	512 (3.9%)	246 (5.2%)	758 (4.3%)	675 (3.9%)	② 83 (0.4%)	12%
販管費	367	146	513	491	③ 22	4%
営業利益	145	100	245	184	61	33%
営業外損益	13	▲43	▲30	▲34	④ 4	
経常利益	158	57	215	150	65	43%
特別損益	-	▲22	▲22	▲16	⑤ ▲6	
税引前 当期純利益	158	35	193	134	59	44%
当期純利益	93	22	115	71	44	62%

①②売上高・売上総利益

● JFE商事 (単独)	▲132	+26
・ 鉄鋼	+719	+19
・ 原材料・資機材	▲839	+6
・ 不動産 他	▲12	+1
● 分社2社	+472	+21
● 国内子会社	+70	+16
● 海外子会社	+189	+6
● 連結修正	▲262	+15
● 食品・エレクトロニクス事業	+37	▲1

③販売費及び一般管理費

運賃等販売費の増 他

④営業外損益

持分法損益 他

⑤特別損益

保有資産の減損 他

3. 連結貸借対照表(要約)

(億円)

	当期末	前期末	増減
総資産	5,892	5,230	① 662
純資産	1,536	1,346	② 190
有利子負債	966	991	③ ▲ 25
有利子負債倍率 (DER)	0.65倍	0.76倍	▲ 0.11倍
(ネットDER)	0.51倍	0.58倍	▲ 0.07倍
自己資本比率	25.1%	24.8%	0.3%

①総資産

前期末比662億円増の5,892億円。

現預金	▲ 22
売上債権	+458
棚卸資産	+37
有形固定資産	+65 他

②純資産

≪190億円増の内訳≫

～増加～	利益剰余金 +98
	評価・換算 +86
	少数株主 +6

③有利子負債

前期末比 25億円減の966億円

※有利子負債倍率 (DER)

= 有利子負債 ÷ (純資産 - 少数株主持分)

※自己資本比率

= (純資産 - 少数株主持分) ÷ 総資産

※有利子負債倍率 (ネットDER)

= 有利子負債から現預金を控除して算出

4. 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(億円)

	当 期
営業活動によるCF	179
投資活動によるCF	▲ 107
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	72
財務活動によるCF	▲ 115
現金同等物の換算差額	23
現金及び現金同等物の増減 (連結除外含む)	▲ 22
現金及び現金同等物 (期首)	240
現金及び現金同等物 (期末)	218

●営業活動によるCF

税前利益	+193
減価償却	+ 47
営業立替の増	▲ 49
在庫の減	+24
法人税等の支払	▲ 46 他

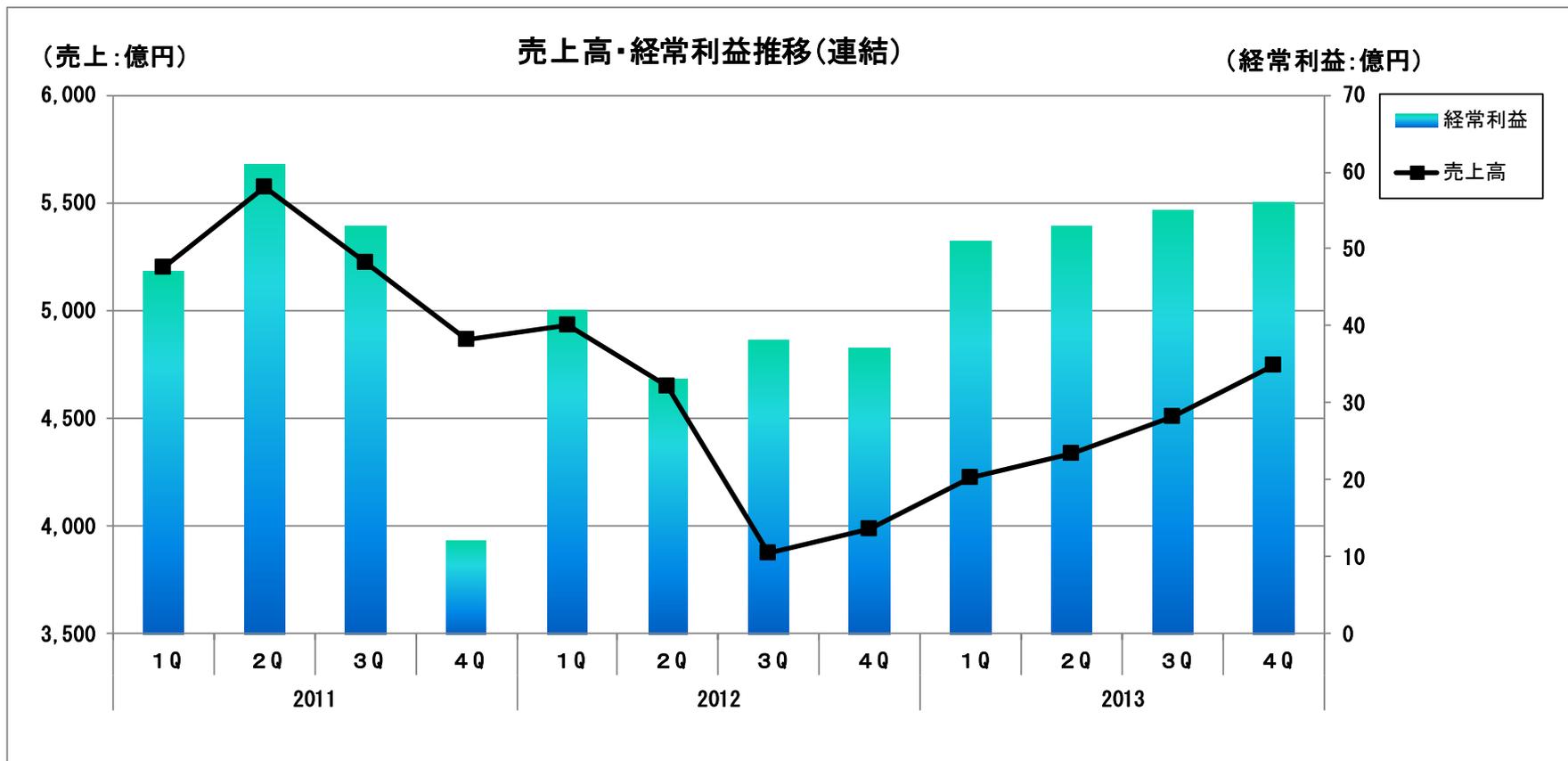
●投資活動によるCF

有形固定資産の取得	▲ 82
無形固定資産の取得	▲ 11
貸付による支出	▲ 23 他

●財務活動によるCF

借入金等の増減	▲105
配当金の支払	▲ 8 他

5. 《参考》売上高・経常利益推移（連結）



(億円)

	2011年度				2012年度				2013年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	5,201	5,573	5,225	4,867	4,932	4,651	3,872	3,984	4,224	4,334	4,506	4,749
経常利益	47	61	53	12	42	33	38	37	51	53	54	57



JFE

*本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって見通しと異なる場合があります。